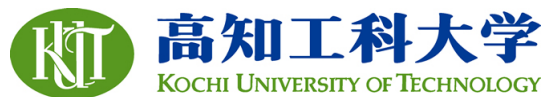


Kochi University of Technology Academic Resource Repository

Title	巻頭言
Author(s)	瓜生, 敏之
Citation	高知工科大学紀要, 7(1)
Date of issue	2010-07-29
URL	http://hdl.handle.net/10173/554
Rights	
Text version	publ isher



Kochi, JAPAN

<http://kutarr.lib.kochi-tech.ac.jp/dspace/>

巻 頭 言

高知工科大学紀要は、公立大学法人化を契機に今回発行の第7巻より掲載内容を一新することとしました。本学の研究、教育、地域貢献活動成果の自発的な発信媒体となることを目的としています。2008年6月発行の紀要第6巻までは、公設民営の高知工科大学としての研究成果を、義務的に研究発表する出版物として利用されてきました。

高知工科大学は2008年4月に文系のマネジメント学部を新設し、理系の工学部との2学部構成されました。更に、2009年4月の公立大学法人化を契機に、工学部をシステム工学群、環境理工学群、および情報工学群の3学群（公的には学部扱い）へ再編しました。これらの改革により、3学群と1学部から構成されるスケールアップされた大学へと生まれ変わりました。

本学は2009年、従来からある総合研究所を先端研究主体の組織へ改組し、また地域産業等に基盤を置く地域連携機構を創設しました。その他、ナノデバイス研究所、社会マネジメント研究所、およびナノ創製センターにおいても従来通り活発に研究しています。先端研究と教育を活性化するため、教員数の増加を行うと同時に、約12名のポスドク研究員を学群および研究所等の教員へ配置しました。

大学は、教員および学生自らが研究を通じて知的水準を向上させると同時に、その成果を社会に還元するのが使命です。研究成果は世界的な学術誌に発表されるのが常ですが、大学紀要への発表もまた重要です。

本大学として初めて、野中弘二教授を委員長とし、中村直人教授、両角仁夫准教授、堀井滋准教授、および桂信太郎准教授の各委員から構成される紀要委員会を組織し、種々議論の末、出版に至りました。全委員の懸命の努力と執筆教員の協力が結実し、素晴らしい新生紀要が生まれたと自負しております。

本第7巻は本学の研究、教育分野の成果の一端を論説した招待論文と、2009年度の研究成果である投稿論文をまとめたものです。ご高覧をお願いする次第です。

副学長・研究本部長 瓜生 敏之